

「仕事と生活の調和」実現度指標のイメージ

直面している課題

社会

少子・高齢化社会の到来
地域社会のつながりの希薄化

企業

グローバル化による競争激化
技術革新の加速
知識社会への移行
人材不足

個人

正社員、男性に多い長時間労働
仕事と家庭生活の事情が調整しづらい
非正社員は、時間の柔軟性はあるが処遇が不安定 等

困難な状況

仕事だけでなく、家庭や地域での生活も大切にしたいが、困難
家庭の事情で働き続けることができない（特に女性）
柔軟に働き方を選択したいが、生活が不安定になる。
高齢期も働きたいが、働く機会は限られる 等

目指すべき社会

個人



仕事と生活の調和が実現した社会の具体的な姿

就労による経済的自立が可能な社会

健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

多様な働き方・生き方が選択できる社会

環境整備

勤務時間短縮制度の整備
育児休業・介護休業の利用促進
従業員の自己啓発支援

従業員の健康支援、メンタルヘルスケア
雇用・労働政策
両立支援施策 等

企業・社会へ期待される効果

企業の競争力強化
地域社会の活性化

高付加価値化
少子化の進展への歯止め

多様性の受容 等

多様性を尊重した活力ある社会、持続可能な社会

実現度指標

<個人の実現度指標>

- 5分野毎に整理 -
仕事・働き方
家庭生活
地域・社会活動
学習・趣味等
健康・休養

<環境整備指標>

行動指針に盛り込まれる取組及びそれによる社会環境の変化など